

国際総合科学部経営科学系経営学コース 卒業論文審査に関するルール

1. 審査基準

【形式基準】

- ・卒業論文の要件として下記を求める。
 - (a) 使用言語：日本語または英語
 - (b) 本文及び参考文献の文字数：ゼミ指導教員の指示に従う。
 - (c) 様式：両面指定の要旨以外は A4 版片面印刷。ゼミ指導教員の許可がない限り横書き。
 - (d) 卒業論文本体の構成
 - ・黒表紙あるいはゼミごとに定められた表紙（教育推進課指定の紙を貼ること）
 - ・学部・学系が定める様式に従った日本語または英語による要旨(綴じ込み分)
 - ・中表紙（表題、学籍番号、氏名を明記のこと。）
 - ・目次
 - ・本文 序論・本論・結論など、章立ての詳細はゼミ指導教員の指示に従うこと。
謝辞の有無およびその内容は成績には関係しない。
 - ・参考文献 ゼミ指導教員の指示による主要な学会誌の参考文献の表記方法に従うこと。

【評価項目】

- ・卒業論文は下記要件の達成を目指す。
 - (1) 的確な研究の焦点
 - (2) 先行研究の十分なサーベイ（剽窃行為は決して行わないこと）
 - (3) 論理的整合性
 - (4) 適切なデータ、資料の使用（剽窃行為は決して行わないこと）
 - (5) より大きな付加価値(net contribution)

2. 審査体制

卒論演習Ⅱの担当教員を主査とし、経営学コース会議で決定した教員1名を副査とし、主査と副査2名で審査を行う。

3. 審査方法

- (1) コースおよび副査が定めた方式に従い、複数の学生等がいる公開の場で卒業論文の発表を行い、副査の審査を受ける。
- (2) 副査は合格に関して疑問が生じる論文をコース会議に報告する。
- (3) コース会議は副査の報告を受けてそれら論文の可否を決定する。
- (4) 主査は、コース会議の可否決定に従い、副査のコメントなども踏まえて成績入力を行う。

4. 卒業論文発表会について

経営科学系会議で決定した日程（原則、1月第4土曜日）の1限～5限の時間内に、在学生などの公開のもと、卒業論文提出者は全員、副査教員の前で各学生15分間の発表と5分間の質疑応答形式で行う（なお、卒業論文発表会は試験扱いとする）。

以上

国際総合科学部経営科学系会計学コース 卒業論文審査に関するルール

1. 審査基準

【形式基準】

- ・論文としての構成・体裁が整っているか
 - (a) 使用言語：日本語または英語
 - (b) 本文及び参考文献の文字数：ゼミ指導教員の指示に従う。
 - (c) 様式：原則 A4 版（片面または両面印刷）、横書き
（なお、主査の許可があればその他の形式も認める。）
 - (d) 卒業論文の構成：下記が含まれていなければならない（なお、謝辞については自由）
 - ・日本語要旨
 - ・表紙（教育推進課指定の表紙を利用すること）
 - ・目次
 - ・本文（序論・本論・結論・脚注・補遺など。章立ての名称は任意）
 - ・参考文献：研究領域を代表する専門誌（例えば、『会計プロGRESS』等）の投稿規定を参考にし、そこから大きく逸脱しないこと。あるいは、「法律文献等の出典の表示方法」（平成 26 年）<http://www.houkyouikushien.or.jp/katsudo/>を参考とすること。
（なお、文中の注釈は各ページの下（脚注）、章ごと、終末にまとめたのどちらでもよい）
- ・形式基準を満たしていない卒業論文については、下記の【評価項目】の如何にかかわらず原則として 60 点未満とする。

【評価項目】

- ・上記の【形式基準】を満たしている場合、以下の項目に照らして評価を行う。
 - (1) 研究の焦点が定まっているか。
 - (2) 先行研究のレビューを充分に行っているか。
 - (3) 論理的整合性があるか。
 - (4) 適切なデータ、資料に裏付けられているか。
 - (5) 相応の独創性が認められるか。
 - (6) 研究の意義・成果の明示がされているか。
 - (7) 副査は卒業論文発表会でのプレゼンテーションも評価項目とする。

2. 審査体制

卒論演習Ⅱの担当教員を主査とし、会計学コース会議で決定した教員 1 名を副査とし、主査と副査 2 名で審査を行う。

3. 審査方法

- (1) 1. 【評価項目】に従い、主査・副査がそれぞれ 100 点満点で評価を行い、各点数の平均点を卒業論文の評価とする（小数点以下は切り上げる）。
- (2) 但し、主査もしくは副査のいずれかが 60 点未満の評価を行った場合、平均点に拘わらずコース会議にて成績判定を行う。

4. 卒業論文発表会について

経営科学系会議で決定した日程（原則、1 月第 4 土曜日）の 1 限～5 限の時間内に、在学生などの公開のもと、卒業論文提出者は全員、副査教員の前で各学生 15 分間の発表と 5 分間の質疑応答形式で行う（なお、卒業論文発表会は試験扱いとする）。

以上

国際総合科学部経営科学系経済学コース 卒業論文審査に関するルール

1. 審査基準

【形式基準】

- (1) 使用言語：日本語または英語
- (2) 本文及び参考文献の文字数：ゼミ指導教員の指示に従う。
- (3) 様式：両面指定の要旨以外は A4 版片面印刷。ゼミ指導教員の許可がない限り横書き。
- (4) 卒業論文本体の構成
 - ・ 黒表紙あるいはゼミごとに定められた表紙（教育推進課指定の紙を貼ること）
 - ・ 学部・学系が定める様式に従った日本語または英語による要旨(綴じ込み分)
 - ・ 中表紙（表題、学籍番号、氏名を明記のこと。）
 - ・ 目次
 - ・ 本文
 - a. 序論・本論・結論など、章立ての詳細はゼミ指導教員の指示に従うこと。
 - b. 謝辞の有無およびその内容は成績には関係しない。
 - ・ 参考文献
 - a. 『公共選択の研究』『財政研究』等、ゼミ指導教員の指示による主要な学会誌の参考文献の表記方法に従うこと。

【評価項目】

- (1) 的確な研究の焦点
- (2) 先行研究の十分なサーベイ（剽窃行為は決して行わないこと）
- (3) 論理的整合性
- (4) 適切なデータ、資料の使用（剽窃行為は決して行わないこと）
- (5) より大きな付加価値(net contribution)

2. 審査体制

卒論演習Ⅱの担当教員を主査とし、経済学コース会議で決定した教員1名を副査とし、主査と副査2名で審査を行う。

3. 審査方法

- (1) コースおよび副査が定めた方式に従い、複数の学生等がいる公開の場で卒業論文の発表を行い、副査の審査を受ける。
- (2) 副査は合格に関して疑問が生じる論文をコース会議に報告する。
- (3) コース会議は副査の報告を受けてそれら論文の可否を決定する。
- (4) 主査は、コース会議の可否決定に従い、副査のコメントなども踏まえて成績入力を行う。

4. 卒業論文発表会について

経営科学系会議で決定した日程（原則、1月第4土曜日）の1限～5限の時間内に、在学生などの公開のもと、卒業論文提出者は全員、副査教員の前で各学生15分間の発表と5分間の質疑応答形式で行う（なお、卒業論文発表会は試験扱いとする）。

以上